



## 地域との連携の再構築を目指して

院長 柚木 茂

7月から地域医療連携室長の任に就くことになりました。

新型コロナウイルスが5類に移行し、行動制限がなくなり、当院の状況も変わりつつあります。今まで築き上げてきた診療所の先生方や介護施設の方々との関係性をさらに強いものにするため、地域との連携の再構築、顔の見える連携をしたいと考えたからです。

これまで同様、皆様と情報交換しながら、変化に柔軟に対応し、質の良い医療を提供できるよう努めていく所存です。

6月より開業の先生方へのご挨拶回りを再開いたしました。また、今年度より新しい試みとして看護師、理学療法士、言語聴覚士などによる「出張おでかけ松山市民病院ミーティング」を始めました（下段参照）。開始間もないですが、ご好評いただいております。地域に貢献する取り組みとして継続できればと思っています。

地域完結型医療が全国的に普及し、当院でも前方連携、後方連携の件数が増加しています。過疎化、核家族化、認知症高齢者の増加などを背景に、生活課題を抱えている患者さんも少なくありません。団塊の世代が75歳以上となる2025年も目前となっております。患者さんに寄り添いながら、行政とも連携し、様々な課題に取り組んでまいりたいと思います。

安心して紹介・受診いただける地域に根ざした病院を目指し、社会福祉士（MSW）5名、看護師3名、事務職員3名を配置しておりますが、さらに増員の予定もあり、一層の連携促進を図ります。

地域の皆様のご意見を謙虚に受け取り、より皆様に信頼される病院となるよう、急性期病院としての責務を果たしてまいりますので、今後とも末永く当院との連携についてご協力をお願いいたします。

## 出張、おでかけ松山市民病院ミーティング ～嚥下について学ぼう～

地域の発展に貢献する病院として、積極的に「当院の特徴を活かした院外活動」を行っています。当院が保持する知識や経験といった様々なノウハウは、当院だけの財産ではなく、広くこの地域の共有財産（人的資源）です。この財産を施設の利用者様へのヒントやスタッフの育成に活用することで、地域の医療の向上に貢献できると考えています。

先日グループホームへ出向き、摂食嚥下の講義と実技研修を行いました。

実技研修では、利用者様の状態に合わせた嚥下評価と対応方法を実施しました。動画を撮影し、参加できなかったグループホームスタッフと情報共有することにより、スタッフ間で差が出ないケアができるよう取り組んでいっしょにしました。

積極的な院外活動をもって地域の医療施設との連携を密にし、これまで以上に顔の見える関係性を築き、当院を身近に感じていただけるようになれば幸いです。今後ともよろしく願います。



北村言語聴覚士（左端）

皆さん、熱心にメモを取ったり質問したり。おひとりおひとりに合わせたケアを共に考えました。



### 【職員の方々の感想】

- ◎日々行っているケアへの意識が変わりました。
- ◎口腔・口唇マッサージや舌の運動などを実践しています。
- ◎研修後すぐに取り組める内容で、有意義でした。
- ◎嚥下に関する基本的な知識だけでなく、利用者様のもと指導いただいたので、認知症高齢者に適したケア方法を学ぶことができました。

（文責 言語聴覚士 / 北村広志、広報委員 / 松長聡美）